古書のたのしみ（令和八年五月）

土屋　博

一「書家自在」

（皇都書房、萬延元年庚申閏三月）

古書價格百十圓也。萬延元年は一八六〇年。「書家自在」は江戸時代の儒家通冨元禮の編輯。揮毫に相應しき二字（高尚、洗心、貞明など）、三字（雲從龍、學遜志、德不孤など）、四字（修德立義、舍己從人、上善如水など）、五字（本立而道生、溫故而知新、山水有静音など）、六字（冨潤屋德潤身、鳥啼山客猶眠など）等々。

二「日本史略　一、二、三、四」田中義廉著

（甲府內藤傳右衞門、明治十年頃刊）

古書價格四百四拾圓也。卷五のみ缺け。

三「日本史略　續編　一、二、三」（揃）田中義廉著

（山梨縣平民內藤傳右衞門、明治十年刊）

古書價格三百三拾圓也。

田中義廉（よしかど）（一八四一年生れ、一八七九年歿）は、洋學者・教科書編纂者。信濃國飯田の醫師の六男、江戸に出て林洞海に蘭學を學び幕府海軍士官。彰義隊に屬す。文部省にて教科書編纂に從事す。

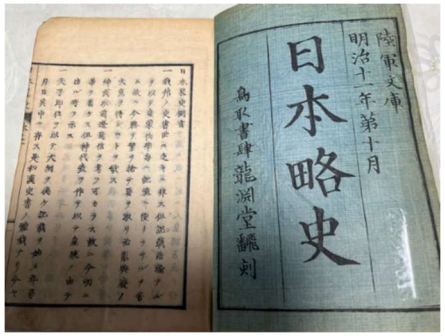
日本史略の卷一は第一代神武天皇より第三十九代弘文天皇まで、卷二は第四十代天武天皇より第六十四代圓融天皇まで、卷三は第六十五代華山天皇より第八十七代四條天皇まで、卷四は第八十八代後嵯峨天皇より第百四代後柏原天皇まで。

日本史略續編の卷一は第百十一代後西院天皇より第百二十代仁孝天皇まで、卷二は第百二十一代孝明天皇、三は今上天皇。

四「翻刻　日本略史　一、二、三、四」（揃）陸軍文庫

（鳥取書肆龍淵堂翻刻、出版人平民横山安次郎、明治十一年刊）

古書價格四百四拾圓也。編輯者の笠間益三（一八四四年生れ、一八九七年歿）は筑後國柳川藩士。藩校傳習館及び昌平黌にて學ぶ。慶應義塾卒業後兵部省に出仕し陸軍省より「日本略史」を著す。神奈川師範學校長、舊制五高教授を歷任。





五「増補點註　國史略　二、三、四、五」巖垣松苗著、巖垣杉苗註解
（出版人東京府平民山中市兵衛、明治十三年再販）
四冊にて古書價格五百圓也。板權免許明治九年。巻一のみ缺け。巻一については、既に令和七年十月「古書のたのしみ」に述べたる如く入手濟みなれば、茲に全巻揃ひとなりたるは悦ばし。巻二は天武天皇より圓融天皇まで、巻三は一條天皇より仲恭天皇まで、巻四は後堀河天皇より後奈良天皇まで、巻五は正親町天皇より後陽成天皇まで。

六「點註　日本略史　一、二、三、四」（揃）石川鴻齋點註
（東京書林山中氏藏版、明治十七年刊）

古書價格五百圓也。石川鴻齋（一八三三年生れ、一九一八年歿）は三河國吉田（現豊橋）の紙商人の長男として生れ、數學、漢學を學ぶ。芝增上寺淨土宗學候漢學講師となり、依田學海、富岡鐵齋らと交流す。石川鴻齋、例言に曰く、「我が國の史書世に乏しきに非ず。但記載浩瀚なるを以て童蒙初學毎に記憶に便ならざるを苦む。故に繁を捨て要を取り治亂興廢の大意を得んことを欲す」と。

七「心學繪入　道歌百首和解　全」守本惠觀編輯
（信行社藏版、明治十九年刻成）
古書價格八百圓也。

八「訂正增補　枕草子春曙抄　上、中」北村季吟翁抄、鈴木弘恭先生訂正增補
（東京書林青山清吉藏版、上卷明治卅一年八版、中卷明治卅三年九版、定價各參拾錢）
古書價格貳百貳拾圓也。下卷欠け。全卷揃ひは既に蒐集濟みなれど、今回は餘りにも安價の爲、豫備用として購入したる次第。

九「少年日本外史　源平の卷」
（金の星社、昭和十年刊、定價八拾錢、五四九頁）
古書價格二千二百圓也。函入。



十「少年日本外史　南北朝の卷」
（金の星社、昭和十年刊、定價八拾錢、四七〇頁）
古書價格三千圓也。ルビ附きの解り易き少年向け日本外史として推奨す。少年向け翻案者は

三島霜川（一八七六年生れ、一九三四年歿、尾崎紅葉に師事したる作家。）。

十一「國史概說　上」文部省編纂

（內閣印刷局、昭和十八年八月刊、定價貳圓、四八〇頁）

古書價格二百圓也。



十二「國史概說　上、下　文部省編纂」呉PASS復刻選書十八

（呉PASS出版、上卷令和二年第二訂版、下卷平成二十九年復刻初版、定價各二千九百四十圓、上卷三五九頁、下卷四一四頁）

古書價格四千圓也。前掲書の復刻版なり。戦前の日本國政府の公式見解ともいふべき歴史觀を示す。高等文官試験の試験科目に「國史」採用せられ、その教科書として編纂せられたるものなり。（編纂部に名前を列ねたるは、穂積重遠、和辻哲郎、田邊元、平泉澄ら。）



（令和八年五月十八日受附）